

序

栄養治療が、すべての患者の基本的医療であることが広く認識されるようになり、栄養サポートチーム（nutrition support team：NST）は全国1,600以上の病院で稼動しています。この組織横断的なチーム医療としての活動は、院内のみならず、地域連携として在宅医療にも広がりを見せています。また、担当医のみならず、管理栄養士や薬剤師が、それぞれ担当する病棟の患者の栄養管理にかかわることは日常的な業務となっています。さらに、特定行為研修を修了した看護師はPICCを挿入し、輸液の管理にもかかわるようになってきました。このように、臨床の現場では、さまざまな形で栄養治療が実践されるようになっています。

滋賀医科大学医学部附属病院では、2003年に全科型NSTが稼働し、これまで約7,000例の栄養管理にかかわってきました。NST活動のなかで、間接熱量計でエネルギー消費量を実測し、エネルギー必要量を算出するといった手法も用いてきました。このような経験から得られた成果は、何かの形で他施設の先生方にも活用していただきたいと考えていました。

そのようななかで、今回、滋賀医科大学医学部附属病院NSTが、実際にどのように静脈栄養の製剤、経腸栄養剤を選択し、活用しているのかを書籍にまとめることを羊土社から提案いただきました。医師、薬剤師、管理栄養士が、分担して執筆し、滋賀医科大学医学部附属病院NSTとして提案できる静脈栄養・経腸栄養のプランを解説しました。理論的な概説のみならず、具体的な処方例も加えて解説しているのが本書の特徴です。是非、さまざまな症例における処方例を参考にし、栄養管理計画の設定にご利用いただければと思います。また、われわれの処方例をベースとして、それぞれの施設でオリジナルの処方例を作成していただくのもよいでしょう。

ポケット版で、白衣にも入れられ、持ち歩きにも便利な形にしあげました。病院や在宅での栄養管理にご活用いただければ幸いです。

2020年2月

滋賀医科大学医学部看護学科基礎看護学講座（生化・栄養）教授

滋賀医科大学医学部附属病院栄養治療部 部長

佐々木雅也